

## 平成 28 年度岩手県立総合教育センター運営協議会・会議の概要

- 1 日 時  
平成 29 年 2 月 17 日（金） 13 : 30～15 : 00
- 2 場 所  
総合教育センター第 1 研修室
- 3 出席委員  
高橋 秀治委員、高橋 清之委員、熊谷 拓也様（平賀信二委員代理）、民部田 誠委員、小原 雅道委員、佐藤 勝委員、市川 尚委員、田口 淳一委員、高橋 豊委員、内澤 稲子委員（以上 10 名）
- 4 出席者  
高橋 勝所長、福士 幸雄研修部長、須川 和紀支援指導部長、菊池総務部長ほか各担当総括等の職員

### 【会 議】

- 1 開会（菊池総務部長）

本日はご多忙中のところ、また、お足下の悪い中、ご出席いただきまして、まことにありがとうございます。

私は、総務部長の菊池と申します。暫時、会の進行を務めさせていただきます。

それでは、ただいまより平成 28 年度岩手県立総合教育センター運営協議会を始めさせていただきます。
- 2 所長あいさつ（高橋所長）

本日はご多忙のところ、岩手県立総合教育センター運営協議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、皆様には日頃より当センターの運営につきまして、ご支援・ご協力をいただき、重ねて御礼申し上げます。

皆様ご承知のように、教育を取り巻く環境は、今、大きく変化しつつあります。国においては、教育公務員特例法が改正され、教員の資質の向上に関する指標や、教員研修計画を策定することとなったほか、平成 30 年から順次実施される次期学習指導要領等においては、小学校における英語の教科化や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善などが示されております。

また、本県においては、教員の大量退職に伴い若手教員が急増する時期を迎えており、教員のキャリア・ライフステージに応じた研修の実施など、一人ひとりの「教師力」の向上を図ることがより重要となってきております。

当センターといたしましては、「岩手県民計画」のもと、「岩手の復興教育」の推進と、長年の重要課題であります「学力向上」の実現に向けて、これらの環境変化を捉えながら、「現場に役立つセンター」として、「研修」「支援」「研究」の 3 つの事業を効果的に展開していかなければならないと強く思っているところであります。

この運営協議会は、平成 17 年に設置して以来、当センター運営の在り方等について、様々な分野の皆様から、幅広くご意見を頂戴してきたところであり、大変貴重な機会であると存じます。忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げ、挨拶に代えさせていただきます。本日はどうぞよろしく願いいたします。

### 3 出席者紹介（菊池総務部長）

委員紹介（事務局から 11 名の委員を委員名簿順に紹介）

県側出席者紹介（高橋所長、佐藤部長、須川部長ほか職員を紹介）

### 4 協議（田口会長）

協議（1）平成 28 年度総合教育センター事業の成果と対応について

それでは、協議（1）の「平成 28 年度総合教育センター事業の成果と対応について」事務局からの説明をお願いします。 ※以下、進行は田口会長（議長）

〔菊池総務部長、福士研修部長、須川支援指導部長が岩手県立総合教育センター運営協議会資料により説明〕

（2）質疑・意見交換

【田口会長】

それでは、（1）「質疑・意見交換」に移ります。はじめに、質問のある方はお願いします。

【高橋委員】

資料 P4 の研修事業 研修者の延人数について、合計 5,790 人というのは、センターとしてどのようにとらえているのか。

【福士部長】

授業力向上研修が免許更新講習を兼ねているため、その人数が多いということで、希望研修については、どうかというご質問だと思います。

研修によっては、非常に好評な研修もあり、例えば、アドラー心理学、いじめ、自死等に関する講座、道徳に関する講座等席が不足することもありました。しかし、それを除いて考えた場合、もっと多くの先生方に利用していただきたいと思っております。私は 15 年前から 10 年前にもセンターの所員としておりましたが、その推移をみると決して少ない人数ではないと評価しています。研修講座は人数をしぼって、より充実した中身にしております。研修者から口コミでひろがっていただけるとうれしく思います。

【内澤委員】

支援事業では、いろいろと相談を受けるということですが、震災後の心のサポートについて、6 年目ということで、小学 1 年生だった子どもたちが中学生になる年数となり、思春期に入ってくる頃だと思いますが、そういうことで何か変化等、お気づきの点があればお聞かせください。

**【須川部長】**

こころのサポート事業については、震災後ずっと継続して行っております。その経過については、各学校等にもお知らせしております。

今、一番課題とされていることは、震災後、内陸に移り住んできた子どもたちのサポートということで、各学校等と情報共有しながら進めている状況です。

中学2年生になると、サポートを必要とする人数が増えるという傾向もあるようです。

**【田口会長】**

「現場に役立つセンター」ということが、教育センターの基本目標にあるようですが、学校現場等のニーズに対応できるような体制組織になっているのかどうか、あるいは、学校教育が抱えている課題を的確に把握して、その改善に結びつく取組が迅速になされる組織になっているのかどうか、とても大切で、関心のあることです。

このあと学習指導要領の改訂や、また、アクティブラーニング等授業方法の改善等が、強く求められているところであります。いろいろな課題を抱えて中で、学校現場を扱う委員の皆様にご意見、要望等について、お話しをいただきたいと思っております。

**【高橋（秀）委員】**

資料 P10 の教育相談事業の相談件数について、昨年度の同時期と比較した資料にした方がいいと思っております。

小学校の立場でのお願いですが、学習指導要領の改訂にかかわって、英語等外国語活動の実施への対応をしなければならないが、現場では不安という声も多いので、ご指導をよろしくお願いします。

特別支援教育についてですが、学級担任の高齢化が進んでおり、ベテランの先生方が退職を迎えることとなりますが、特別支援学級は増加している状況です。特別支援学級の先生方の指導力向上について、ご指導いただいておりますが、こちらでも積極的に参加させたいと思っておりますが、さらにご支援いただくことを要望いたします。

**【高橋（清）委員】**

県の中学校長会で話題になることですが、教育研究団体への加入率が下がっている状況について話題となっている。任意団体ですが、実際の授業をやりながら研究を進めたり、会員同士のネットワークを構築するということもあります。そこで、センターの研修とのタイアップしながら、中学校教育の研修を更に参加者を増やしていくことはできないものかと考えております。

情報モラルにかかわる指導については、民間の GREE や LINE 等から講師を派遣していただいている状況です。センターをもっと活用していければと思っておりました。

また、G アップシートの利用状況について、教えていただければと思っております。

#### 【熊谷（平賀委員代理）】

PDCA サイクルにより改善を図っていくという点で、アンケートの分析は欠かせないものだと思います。そして、同じ項目で経年変化をみる手法で、ビフォー・アフターを比べて良くなっているというのはわかるのですが、明らかにこの項目は、教員と保護者で受け止め方が違うというものがあるということを感じていただきたいと思います。

例えば、部活動指導についてとか、生徒指導については保護者と教員の評価は変わりないのですが、教科指導に関するものについては、かなり教員の方が甘目の高い評価になっております。それは自負もあると思いますが、生徒は、成績が悪いのは先生の教え方が悪いからだと話します。アンケートをとる際には、教員だけを対象としているので、ある特定の項目については、一般社会人とは乖離した回答になることがあるということに注意しながら分析した方がいいと思います。

#### 【民部田委員】

特別支援教育についてですが、障害の重度、重複、多様化している状況で、その子供たちにあった指導課題ということができます。その中で、タブレット端末を利用した教育、重度重複障害の子どもたちへの教育指導等、現場にとってはありがたいことに取り組んでいただいております。感謝いたします。

教育相談についてですが、カウンセラーの資格をもった人が不足している現状であります。そういった中で、教育相談コーディネーター養成研修の実施はとても助かっておりますが、人数は少ないと思いますので、もっと多くの職員が現場で対応できるようにお願いしたい。

#### 【高橋所長】

さまざま、貴重なご意見をいただきました。現場すべてのニーズを把握することについては、心がけておりますが、なかなか聞こえてこない部分もあり、また、PRについてもいろいろ取り組んでおりますが、まだまだ認知されていないところもあります。

また、講座内容が十分に理解されていないこともあるので、チラシを配布したり、先生方の意見に直接を吸い上げ、耳を傾ける機会を増やす等、タイムリーな形で対応できるようにしていきたいと考えております。

#### 【田口会長】

高橋秀治委員からお話しのありました、新しい学習指導要領による、小学校の教科としての英語教育について、センターとしてどのように進めていく予定なのか、お話いただければと思います。

#### 【須川部長】

このことは、岩手県だけではなく全国的にも移行措置の期間で、小学校英語が始まる前の準備期間として、先生方がどのように進めていけばいいのか、学校教育室と連携しながら、センターの研修だけでなく、さまざまな機会を通じて伝えていきたいと考えております。

また、国の方でも、小学校英語、外国語指導についての研修等も実施しておりますので、そういう場も活用しながら進めていきたいと思えます。

**【田口会長】**

学習指導要領の改訂はもうすぐなので、「現場に役立つセンター」として早め早めの対応をお願いします。

いろいろと課題の多い学校教育ではありますが、次に親の立場から、小原委員長お願いいたします。

**【小原委員】**

親の立場として、しつけに関しては当然家庭でというのはその通りなのですが、小学校、中学校、高校と成長するにあたって、人格形成には、先生方と接している時間も多いため、先生方の影響を受けると思えます。先ほど、教育課題に対応できる教員を育成するというお話がありましたが、教育課題の中に人としての資質を高めるというそういうプログラムはあるのでしょうか。

**【福士部長】**

教科指導、さまざまな教育課題、またそれ以外の教員としてのあるべき姿、教員としての資質、教員としてこうあってほしいということについての講話、あるいは、コンプライアンス、メンタルヘルスなど、先生方の資質を高めるプログラムが、各研修講座の中に入っております。教員は子どもたちの人間形成に携わる大事な職であり、さまざまな角度からの教員研修であるべきと考えます。限られた時間のため、できる限りの範囲ですが、研修のプログラムに入っております。

**【田口会長】**

教育行政の立場から、佐藤委員さまお願いします。

**【佐藤委員】**

教育行政のニーズが高まる中、センターとしてのパワーもさらに拡大していく必要があるのではと思えます。

教員の大量退職、大量採用ということになりますと、学校経営をする管理職の方々の能力、特に学校のカリキュラムマネジメント研修の充実については、しっかりとお願いしたいと思えます。

岩手県の先生方の ICT を活用した授業力が決して高くないと聞いております。先生方の平均年齢が上がっており、抵抗感が強いということもあるかと思えますがツールとして学びを深くするために必要なことですので、よろしくお願いします。

市では非常勤職員を、学校に支援員等として派遣しておりますが、その職員がセンターでの研修を受けることができるのでしょうか。

教育環境の改善ということで、市民の方とワークショップをしていると、その中で、キャリア教育を充実させてほしいという話がありますので、その取組についてもお願いしたいと思えます。

#### 【高橋豊委員】

岩手県の学力向上のために、これからもご努力いただきたいと思います。日頃の子どもたちをどの程度観察しているか、問題を予測し、予防するという取組、子供たちが学校に行くのが楽しいというような環境を作っていただきたいと思います。人口が減少し、生徒数も減っており、一人ひとりが貴重な存在です。

私も、地元で仕事ができ、受け入れられるような、魅力的な会社を作りたいと思っておりますので、子供たちにとっても岩手県に対して誇りをもてるようなそんな生徒指導をお願いしたいと思います。

#### 【内澤委員】

先生方が忙しいということは理解しておりますが、教えること、PTAのことで時間が過ぎていくように感じております。

先生方の勉強する機会の中に、地域を発見し、それを子供たちに伝えていけるようなことがあってもいいのではないかと思います。

「教育研究いわて」の中に、地域を愛することから始まっていくという南部美人の久慈さんのお話が載っておりました。先生方はお忙しいと思いますが、そういった機会も織り込んでいただけたらと思います。

#### 【市川委員】

研修のデザインについて、教育センターで模範的な研修を行ってほしいと思いました。研修講座の事後調査において、「活用した」という割合が高くなっているが、どの程度活用されているのかがよく分からないので、きちんと研修をデザインして、個々の状況を把握してほしいと思います。

情報教育についてですが、小学校においてもプログラム教育ということもありますし、また、情報モラル、ICT活用力など、ぜひ推進してほしいと思います。

最近、高大接続という話がでてきておりますので、今後取り組んでいただければと思います。

情報科の教員の採用がなく、あっても非常勤、あるいは他教科の先生が教える状況がほとんどです。我々も支援していきたいです。よい教材を効果的に使用し、普及するというのはこれからも必要です。

#### 【高橋所長】

佐藤委員様から照会のありました非常勤職員の方の研修につきましては、3か月の通級もありますし、他の研修についても、聴講等対応できますので、ご相談いただければと思います。

【田口会長】

本日は限られた時間の中で、いろいろもっとお話ししたいこともあったかと思いますが、この場は何かを決める会ではありませんので、今日出されたご意見等については今後のセンター運営に生かしていただきたいと思います。

以上で協議を終わりたいと思います。ご協力ありがとうございました。

7 その他

委員に諮ったが特に無かった。

8 閉会【事務局】(菊池部長)

委員の皆様には熱心にご協議をいただき、感謝申し上げます。

それでは、以上をもちまして平成28年度岩手県立教育センター運営協議会を閉会させていただきます。本日は大変ありがとうございました。